

## 外伝 その5

### 《最初の生コン工場敷地に、スカイツリーが建設》

生コンとは、セメントと土砂を工場で練り混ぜ、まだ固まっていない状態ですぐに工事現場へ配達される柔らかなコンクリートのことです。生コンがなかった時代は、工事現場で材料を配合し、練り合わせてコンクリートを作っていました。

その生コンを作る工場ができたのは、戦後の1949年（昭和24）のことでした。住友大阪セメント株式会社の前身である磐城セメント株式会社が全額出資して生コン工場が誕生しました。

場所は、東武鉄道業平駅構内にあり、生コン出荷1号は、地下鉄銀座線の工事でした。更に丸ノ内線工事にも納入できて信頼を得、当生コン工場は、東京都の道路、護岸、軌道、マンホール工事などの土木工事のほか、各種建築物向けにも納入されていきました。

この生コン工場は、その敷地を含んだ再開発事業により、東京スカイツリーを建設することが決まり、多くの功績を残して2007年（平成19）役割を終えました。現地には、「生コンクリート工場発祥の地」記念碑が設置されています。

なお、スカイツリーは、堤防に囲まれた海面より低い地盤に立地していることから、堤防が破れたときの浸水も想定して設計され建設されています。また業平駅の名前は、現在「とうきょうスカイツリー駅」に改称されています。

写真は、①スカイツリー（HP「株式会社大林組」掲載写真）、②「生コンクリート工場発祥の地」記念碑（HP「エスオーシーグループ」掲載写真）

